

カレード通信

2026年
9月号

September

日	月	火	水	木	金	土
		1 赤	2	3	4	5 子 陶芸
6	7	8 赤	9	10	11	12 子 陶芸
13 英 カレードシネマ	14 薬膳料理教室	15 赤 シフォンケーキの料理教室	16	17	18 料理教室	19 子 陶芸
20 子	21	22 赤	23	24	25	26 子 陶芸
27 子 かがく実験教室	28	29 シフォンケーキの料理教室	30			

＊おはなし会情報＊

会場：児童コーナー(パオ)
時間：10:30～11:00
参加無料・申込不要

赤 あかちゃんおはなし会

※第1火曜日 ※第2火曜日
※第3火曜日
※第4火曜日(隔月開催)

子 こどもおはなし会

※毎週土曜日
※第1日曜日(シェアタイム)
※第3日曜日 ※第4日曜日

英 えいごのおはなし会

※第2日曜日

図書館展示情報

一般展示 第1回 本の甲子園

「本の甲子園」とは、全国47都道府県の公共図書館員が、地元在住作家の作品(日本の小説)を選出し、トーナメント方式で「おすすめしたい1冊」を選ぶという文学賞です。

第1回 本の甲子園のエントリー作品・関連本を集めました。どの本が大賞に選ばれるのか!?ぜひご注目ください!

YA展示 きみの青春がここにある。

夏休みが終わり、新学期が始まりましたね。部活動やクラスでの人間関係で悩みはありませんか?授業の内容はしっかり理解できていますか?

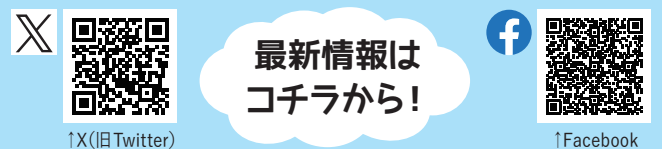
今回は、みなさんの学校生活での日々の寄り添うような本を集めてみました。読書を通して、より楽しい日々を過ごすことができますように。

児童展示 カレード月面調査隊(´・ω・`)ゞ

月は、昔から世界中の人々に親しまれ、神話や昔話、歌などにたくさん登場してきました。遠くて手の届かない存在だからこそ、人々は月にさまざまな夢を思い描いてきたのです。

今回は、月にまつわるいろいろな本を集めました。昔の物語から宇宙の秘密まで、本を読みながら月の世界を楽しく探検してみましょう!

このほか館内の様々な場所でも展示をしています。ぜひこの機会にお立ち寄りいただき、色んな本と出会ってください♪



最新情報は
こちらから!

9月 カレードイベント情報!

カレードシネマ 『ロスト・キング』



日時/9月13日(日)
開場: 13:00～受付開始
開始: 13:30～16:00

ブックトーク、その後上映会

会場/音楽スタジオ 定員/50名(当日先着順)
時間/108分 製作/2022年

フィリッパは、シェイクスピアの「リチャード三世」を観劇したことで人生が一変する。彼女は悪名高き王の真の姿を探し求め、歴史研究に没頭していく…。一人の主婦の情熱が歴史を覆した驚きの実話。

8月 イベント報告

とりごえまりさん 講演会
「金沢での暮らしと絵本制作」

8/8(土)に、絵本作家のとりごえまりさんによる講演会を開催しました。

とりごえまりさんのやわらかであたたかいお人柄がとてもよく伝わってくる時間でした。公演後のサイン会では、一人一人とお話しながら丁寧にサインをされる姿が印象的でした。

とりごえまりさん、ご来館いただいた皆様、誠にありがとうございました。



谷 裕介 写真展

『カラス /KARASU』
『通過 /Passing Through』

日時/9月12日(土)～10月4日(日) 9:00～19:00
(水曜休館)

会場/オープンギャラリー・市民展示室

入場無料

本展では、野々市市生まれのアーティスト・写真家である谷 裕介氏による〈カラス /KARASU〉、〈通過 /Passing Through〉の2つの作品群を展示いたします。

分野を横断し、さまざまな表現活動を展開する作者。孤独や不在、静けさ、人と世界との距離をテーマに、都市の日常風景の中に潜む存在の気配を写し取り、「見ること」と「存在すること」の意味を問い続けます。

本展詳細は、カレード HP またはチラシをご覧ください。



今月のおすすめ本

『ばんば憑き』

著者:宮部みゆき 出版社:角川書店 分類ラベル:F/ミヤ/

「あの村には—こういうとき、格別の手立てがございますんですよ」

湯治旅を終えた若夫婦が、帰途で相部屋を引き受けた老女。彼女の生まれ故郷では、殺人が起こった際、下手人の体に被害者の魂を降ろすというおぞましい儀式が伝わっていて…。(表題・ばんば憑き)

まだまだ暑い9月の夜長におすすめしたい、江戸怪談の短編集です。怪談と銘打ってはいますが、生きる者の哀しさや温かさを感じられる、人情溢れる6篇を楽しめます。

その中で、表題“ばんば憑き”は異質なお話でした。収録作品のなかで唯一、怪異が登場しないお話ですが、同時に最も恐ろしく感じたお話でもあります。人間の業は、ときに怪異よりも厄介なものを生み出すのかもしれない…目をそむけたくないような本質をまざまざと描く、印象的な怪談です。

キャラクターたちの体温や息遣いを感じるような、人間らしい描写に引き込まれる本作。江戸怪談という現実離れしたジャンルながら、どこか自分と重ねて読んでしまう、不思議な魅力があります。(スタッフS)

こちらの本は、カレードに1冊所蔵しています。